

## 三田市 I C T 推進計画取組み結果について

市民サービスの維持・向上、行政運営の安定的な継続、人口減少社会がもたらす様々な課題の解決を図るため、本市における I C T 利活用の基本方針及び具体的な取組み等を定めた「三田市 I C T 推進計画」の取組み結果について下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 計画の名称

三田市 I C T 推進計画（計画期間：令和 2 年度から令和 6 年度）

#### 2 主な取組結果

<b>(1) オンライン化原則（電子申請・キャッシュレス決済）</b>	
市独自の電子申請システム導入	各種申請・イベント申し込み等 330 手続 55,959 件
国の電子申請システム「ぴったりサービス利用拡大」	31 手続 883 件
キャッシュレス決済	窓口でのキャッシュレス決済、市税等のクレジットカード・スマホ決済、口座振替ネット受付

<b>(2) オープンデータの推進・データ利活用の推進</b>	
オープンデータ拡充	公開サイトを整備（226 データセット）
データ利活用人材育成	データ利活用・EBPM 研修 ・民間企業や大学等と連携したデータ利活用による実証実験 ・外部団体が募集するデータ利活用に関する研究会に市職員を派遣

<b>(3) マイナンバーカード普及促進</b>	
保有枚数	87,379 枚（人口比 82.1%）（R7 年 10 月末）
コンビニ交付	35,784 枚（住民票・印鑑証明・所得証明） （R6 年度）
健康保険証	国保 55.1% 後期高齢医療 37.9%（R7 年 9 月末）
図書館カード	1,976 名（R7 年 9 月末）
市民健康アプリ	アプリ登録者数 3,025 人（R6 年度末）

<b>(4) デジタルデバイド対策（利用機会等の確保）</b>	
公衆無線 LAN（無料） の拡充	本庁、市民センター、図書館、消防本部等 17 か所
スマホ講座開催	入門、活用、サポーター養成、確定申告、障害者 向け各コースを開講、延べ 240 名参加（R6 年度）

<b>(5) デジタル化、情報システム改革、業務の見直し</b>	
人工知能（AI）活用	ChatGPT（生成 AI）導入、AI-OCR 導入
テレワーク	6,359 回（R6 年度）
会議等のペーパーレス化	・ペーパーレス会議システム （部長級以上が市議会、庁内会議等で利用） ・文書管理システム（電子決裁）
RPA 適用業務拡大	30 業務

## (6) スマートシティ構想に向けた取り組み

さんだ里山 スマートシティ構想 (令和4年度～ 令和8年度)	デジタルを活用しながら市民中心で持続可能な課題解決を行うことで「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」を目指す。  取組の方向性 1. 市民生活の質の向上 2. 都市機能の最適化 3. 官民共創の基盤の構築と強化 4. 市役所のスマート化
---	---

### 3 計画期間後の状況

令和7年度からは、さんだ里山スマートシティ構想のもとデジタル技術やデータの利活用を推進することで、デジタル技術による地域DX（自治体DX・地域社会DX）に取り組んでいます。

また「第5次三田市総合計画【後期計画】（令和9年度～）」にさんだ里山スマートシティ構想の視点を組み込み、「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」実現に引き続き取り組んでいきます。

#### ※地域DX

##### (1) 自治体DX

行政手続のデジタル化や行政内部のデータ連携などを通じて、市民の利便性向上と業務効率化を進めるとともに、生み出した人的資源・財源を新たな行政サービスの企画立案や市民への相談対応などにシフトし持続可能な行政サービス提供体制を確保する取り組み

##### (2) 地域社会DX

少子高齢化、人口減少などにより生じる地域課題を様々な主体が連携しデジタルの力を活用して解決を図る取り組み